

2025 年度夏学期東京大学教養学部

性と身体Ⅱ「トランスジェンダー・スタディーズ」(木曜5限) / 山田秀頌

初回ガイダンス資料 (公開用に編集済み)

## 概要

トランスジェンダーに関する「議論」(法的性別変更、性別移行のための医療をめぐる問題、フェミニズムとの関係 etc.) が近年活発化している一方で、歴史的な文脈や、幅広い当事者の経験や感覚を適切に踏まえた言説は非常に少ない。こうした「議論」は「新しいもの」だとみなされがちだが、実際には数十年にわたって繰り返されてきた論争の最新の繰り返しである。同様に、非規範的なジェンダーを生きることをめぐる様々な言葉(トランスジェンダー、性同一性障害など)をどう理解すべきか、という論争もまた、多様な当事者のあいだで歴史的に議論され続けてきた。

トランスジェンダーをめぐる問題を議論するとき、言葉の歴史を含む歴史的な文脈を知っていること、当事者が生きている具体的な現実に対する感覚を持つことは、差別的な主張の反復を避けるために必要なだけでなく、表面的な知識を超えた思考を深めるためにも重要である。他方で、英語圏でも日本でも、トランスジェンダーの人々はマイノリティを周縁化し、非規範的なジェンダーを生きる人々を様々に定義しようとする社会を前にして、積極的に自分たち自身に関する知識の確立を模索してきた。そこでこの授業では、そうしたトランスジェンダーの人々が書いてきた著作を読むことを通じて、医療、法律やフェミニズムとの関係で当事者がどんな課題に直面し、どんな対抗的な言論を展開してきたのかを学ぶ。それによって、トランスジェンダーについて適切に考えるための基本的な視点を獲得し、当事者にとって何が問題であり続けてきたのか、そうした問題は歴史的にどこから来たのかを理解できるようになることが目的である。

ゼミ形式の授業なので、課題文献を読んできた上でディスカッションに参加することが前提。事前知識は求めないが、ごく基本的なことでもわからないことがあれば積極的に発言のうえ質問すること。

第3回～第5回は、教員から文献についての解説の後、質疑応答を中心に進める。

第6回目以降は、グループに分かれてのディスカッションを取り入れる。

初回以降は原則対面。90分授業だが授業の前後に質問等を受け付ける。

## 文献

第2回(4/17)は言葉や背景の講義。

### 第3回(4/24) 西洋性科学～初期の有名TS～TS医療成立①

パトリック・カリフィア『セックス・チェンジズ——トランスジェンダーの政治学』第1章  
(石倉由、菊池祥子ほか訳、作品社、2005年)

### 第4回(5/1) 西洋性科学～初期の有名TS～TS医療成立②

上記カリフィア『セックス・チェンジズ』第2章

### 第5回(5/15) フェミニズムの歴史的トランスフォビア

上記カリフィア『セックス・チェンジズ』第3章

### 第6回(5/22) アメリカのトランスジェンダー運動①

サンディ・ストーン「帝国の逆襲——ポスト・トランスセクシュアル宣言」レズビアン小説  
翻訳ワークショップ訳(上記カリフィア『セックス・チェンジズ』所収)

### 第7回(5/29) アメリカのトランスジェンダー運動②

Leslie Feinberg, "Transgender Liberation: A Movement Whose Time Has Come" (World  
View Forum, 1992) 冒頭部分のみ  
レスリー・ファインバーグ「女同士の連帯——それを現実に！」渡辺佐智恵訳『ユリイ  
カ』(1998年2月号、206-217頁)

### 第8回(6/5) アメリカのトランスジェンダー運動③

ケイト・ボーンスタイン『隠されたジェンダー』第7章、第10章、第12章の一部(筒井真  
樹子訳、新水社、2007年)

### 第9回(6/12) 日本における性同一性障害医療の台頭

山内俊雄「私たち倫理委員会はなぜ性転換を認めたのか」『論座』(1997年12月号、96-103  
頁)  
原科孝雄、坂本愛子、虎井まさ衛、中原圭一「"異性の体"に苦しむ男女と名外科医が語り尽  
くす 性転換手術は人生を変える」『現代』(1997年4月号、202-213頁)  
野宮亜紀「日本における「性同一性障害」をめぐる動きとトランスジェンダーの当事者運動  
——Trans-Net Japan(TSとTGを支える人々の会)の活動史から」(上記カリフィア『セッ

クス・チェンジズ』所収)

#### **第 10 回 (6/19) 性同一性障害者特例法の成立とその問題**

上川あや『変えてゆく勇気——「性同一性障害」の私から』第 4 章 (岩波新書、2007 年)

筒井真樹子「消し去られたジェンダーの視点——「性同一性障害特例法」の問題点」『インパクション』(2003 年 8 月号、174-181 頁)

東京新聞「傷跡残した「性同一性障害特例法」公布」2003 年 7 月 17 日号。

(参考)「性同一性障害者性別取扱特例法逐条解説」(一部) 南野知恵子監修『解説 性同一性障害者性別取扱特例法』(日本加除出版、2004 年、87-94 頁)

#### **第 11 回 (6/26) 性同一性障害体制をめぐる分断**

三橋順子「トランスジェンダーをめぐる疎外・差異化・差別」好井裕明編著『セクシュアリティの多様性と排除』(明石書店、2010 年、162-191 頁)

吉野靱「GID 規範からの逃走線」『誰かの理想を生きられはしない——とり残された者のためのトランスジェンダー史』(青土社、2020 年)

#### **第 12 回 (7/3) トランスアクティヴィズムとフェミニズムの交差**

田中玲『トランスジェンダー・フェミニズム』第 1 章、第 2 章 (インパクト出版会、2006 年)

#### **第 13 回 (7/10) 現代フェミニズムのトランスフォビアを考える**

シヨーン・フェイ『トランスジェンダー問題——議論は正義のために』第 7 章 (高井ゆと里訳、明石書店、2022 年)